

ミヤギシロメのダイズ紫斑病抵抗性

古川農業試験場

1 取り上げた理由

「ミヤギシロメ」では紫斑病の発生が「タンレイ」に比べて少ないことは、以前から言われていたが、これらに関する数量的知見は少ない。また、「ミヤギシロメ」の品種抵抗性は、成熟期や収穫時期が遅いことによる紫斑病の感染・発病の回避と考えられていたが、古川農試で「ミヤギシロメ」から選抜された早生系統の「古試1号」を利用した試験により、「ミヤギシロメ」紫斑病抵抗性が熟期に関わらず安定していることが示唆されたので、参考資料とする。

2 参考資料

- 1) ダイズ品種「ミヤギシロメ」は「タンレイ」よりダイズ紫斑病に強く、その抵抗性は、「古試1号」の発病から、熟期の変動に関わらず安定していると推察される(図1,表1)。
- 2) 子実に潜在的に感染している紫斑病も「ミヤギシロメ」では「タンレイ」より少ない(図2)。
- 3) 現地ほ場における発生状況も、同様の傾向を示す(図3)。

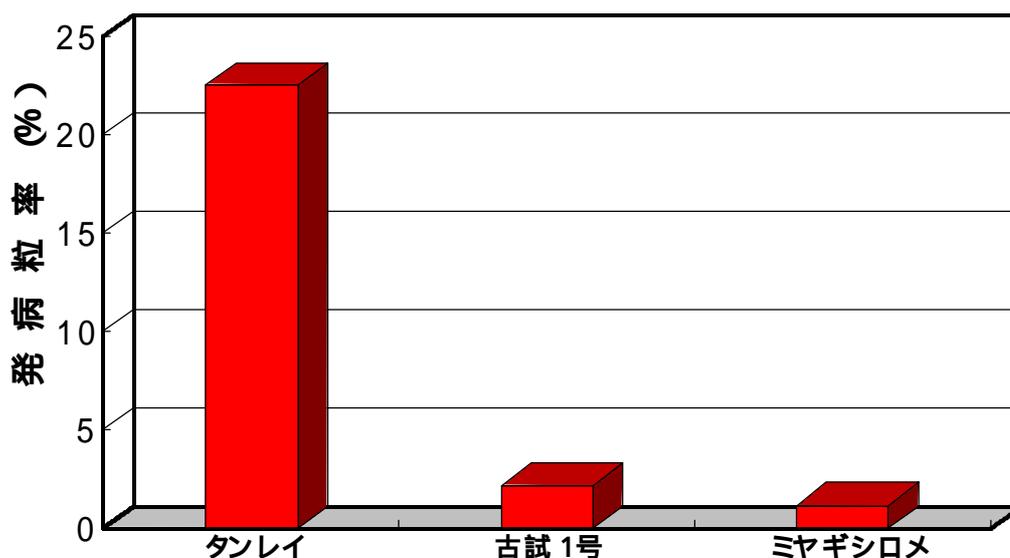


図1 品種別の紫斑病発生状況(平成16年)

注) 各品種とも紫斑病無防除で、害虫防除は実施。また、試験区の周囲にタンレイの罹病種子を播種して発病を促した。

3 利活用の留意点

- 1) 加工用途にもよるが、減農薬栽培農家などでは「ミヤギシロメ」の栽培が有効である。
- 2) 「古試1号」は、古川農試で「ミヤギシロメ」から選抜された、「タンレイ」とほぼ同様の熟期の品種であり、品種としては未登録である。
- 3) 図1の試験は、全品種とも播種時期が5月28日である。表1の生育経過は、参考として、場内圃場における生育調査結果を示している。

(問い合わせ先: 古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

大規模水田輪作におけるダイズの総合的有害生物管理 (IPM) のための主要病害虫制御技術の開発

2) 参考データ

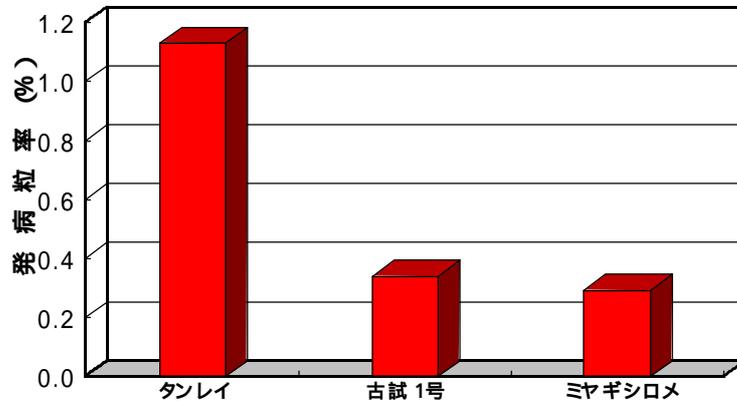


図2 貯蔵後に増加した品種別の紫斑粒発生状況 (平成16年)

注) 手選別により紫斑粒を除去後, 25℃ 恒温室で60日間保存後、再度調査した。

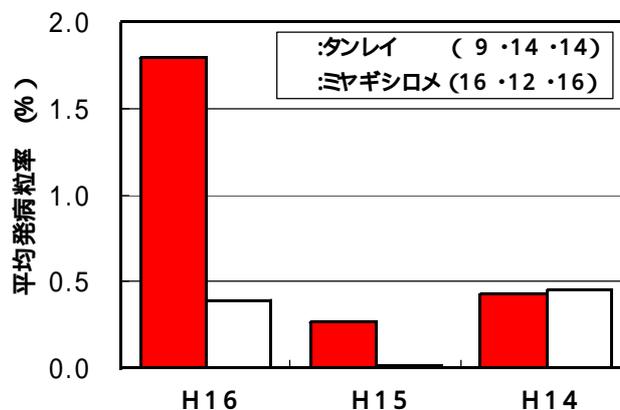


図3 年次別現地圃場における品種別紫斑病の発生状況

注) 病害虫防除所調査。()内は地点数 (H16・H15・H14)

表1 各品種の耕種概要, 生育ステージ (平成16年)

品 種	播種期	開花期	落葉期	成熟期
タンレイ	5月26日	7月26日	9月26日	10月07日
古試1号	5月26日	7月27日	10月01日	10月11日
ミヤギシロメ	5月26日	8月01日	10月09日	10月21日

古川農試奨励品種決定ほ 栽植密度 畝間 75 cm 株間 25 cm

3) 発表論文等 特になし